

樹徳寺たより 2016年 8月号

○今月のことば

親鸞聖人は晩年になるほど、阿弥陀仏の光明の世界をたたえる和讃を詠む一方で、自分はどうにも救われない凡夫だとなげいています。

世間では一般に宗教的達人は清らかで澄んだ池の面のような境地で最期を迎えるのだらうと妄想しがちですが、自分の醜さというものを知る者からすれば、煩惱は死ぬまで盛んになっていくのです。人間の悲惨さと仏のすばらしさが交互にあらわれてくるのが曇天（どんてん）の仏道なのです。

しかし曇天は暗闇とは違います。・・・暗闇を見てきた人間からすれば、曇天はどれほど明るいかと言うことです。

【明治学院大学阿満利麿（あまとしまろ）名誉教授の言葉】

○今月の行事

緑陰フルーツ法話のつどい

8月28日（日）午後4時～

- ・共催「宇奈月の歴史と文化を楽しむ会」（会長 河田 稔）
によるティータイムがあります。

○その他

今月も楽しく「仏説阿弥陀経」の世界へ心の旅をしましょう。